

cellZscope® による HUVEC を用いた血管内皮透過性評価

上皮及び内皮細胞の細胞層は、タイトジャンクションを構成要素とするバリア機能を持っています。近年、薬物や毒素などが、このバリア機能に与える影響を調べる研究が盛んです。特に、細胞層のバリア機能と電気抵抗 (TER) には強い相関関係が見られ測定として有用です。

目的

水腫性変化などの毒性反応を *in vitro* で評価する方法として、薬剤 (陽性対照として IL-1 β) がヒト臍帯静脈内皮細胞 (HUVEC) の透過性に与える影響を cellZscope® により測定する

材料

- HUVEC (倉敷紡績株式会社、Cat No. KE-4109P10)
- 培地; HuMedia-EG2 (倉敷紡績株式会社、Cat No. KE-2150S)
- ラット尾コラーゲンI (CORNING、Cat No. 354236)
- 0.02N 酢酸
- D-PBS
- TrypLE™ Express Enzyme (ThermoFischer、Cat No. 12604013)
- セルカルチャーインサートコンパニオンプレート (24 well プレート、Falcon、Cat No. 353504)
- カルチャーインサート (ポアサイズ 0.4 μ m、24 well タイプ、Falcon、Cat No. 353095)

方法

Day 1

1. コンパニオンプレートにカルチャーインサートをセットする
2. カルチャーインサートに 0.02N 酢酸で希釈した 50 μ g/mL のコラーゲンI を 100 μ L 加え、1 時間静置することでコラーゲンコートを行う
3. コンパニオンプレートに培地を 750 μ L 加える
4. 必要な細胞数が獲得できるまで事前に培養しておいた HUVEC を PBS で 2 倍希釈した TrypLE Express Enzyme で細胞が剥がれるまで処理し、細胞を回収する
5. 培地を用いて、細胞の濃度を 6.0×10^4 cells/125 μ L に調製し、カルチャーインサートに加える
6. reference 用のカルチャーインサートには培地のみを 125 μ L 加える
7. インキュベーター (37 $^{\circ}$ C、5% CO $_2$) 内で 3 時間培養し、細胞が接着しているのを確認した後、カルチャーインサートの培地を交換する (この段階でほぼ confluent である)
8. インキュベーターで一晩培養する

Day 2

9. cellZscope® のセルモジュール本体に下部電極 (ポット) をセットし、リッドに上部電極 (スタンプ) がついたバーをセットする[Ⓐ]
10. ポットに培地を 800 μ L 加える
11. カルチャーインサートの培地を交換し (新しい培地は 400 μ L 加える) ポットにセットする[Ⓑ]
12. リッドをセルモジュールに被せ、test run を行う[Ⓒ]
13. cellZscope® をインキュベーターに静置し、48 時間以上培養する
14. 測定を 1 時間ごとに行い、波形が安定するのを確認する (HUVEC は confluent 後 48 - 72 時間でタイトジャンクションを形成し、TER 値が最大となる) 1

ここがポイント!

Ⓐスタンプが緩んでいないかを確認する

また、バーがリッドにきちっとはまっているかを確認する

Ⓑカルチャーインサートとポットの間に泡が入っていないかを確認する

Ⓒ test run を行うことで、予め全てのカルチャーインサートで抵抗値が測定できているかを確認できる

スタンプの締めが緩いと、抵抗値が上手く測定できないことがある